


【資料6】Unit 3 E-pals in Asia 【Dialog】における指導の概要

総合的な言語活動「わたしの夢」へ向けてのF&Eのねらい・培いたい表現
 ①対話文のフォーマットで「want to+動詞の原形」の用法に慣れさせる。
 ②総合的な言語活動「わたしの夢」で使用できるように、フォーマットで“want to be～”の自己表現を行う。

過程	学習内容	生徒の活動／指導内容	生徒の様子（観察）・反応等
新出表現の理解と練習	3回目	・教師の英語を聞いて内容を理解する。	・英語での口頭導入をよく理解し、日本語や英語で反応している。
	1 Oral Introduction	<p>We have three holidays this weekend. Saturday, Sunday, and Monday. What day is the next Monday? Do you know? Yes. It's "Umi-no-hi", Marine Day. <u>I want to go to the beach. I want to body-board. I don't want to swim.</u> But I want to body-board. What do you want to do next holidays?</p>	
	2 Questions & Answers	<p>・教師の質問に答える</p> <p>What do you want to do next holidays?</p> <p>【反応例1】 T: What do you want to do? S1: ん～..... T: 部活とかするかな？ How about you? S2:play the clarinet.....</p>	<p>【反応例2】 T: How about you? S2: Tuba! T: You want to play the tuba? Do you have club activities next holidays? S2: Yes. T: Three days? S2: Yes.</p>
	注) 文法の説明のないまま、英語での質問を行っている。下線部の want to～を用いた英文のみを板書。	<p>・5人の生徒に同様の質問を行い、want to～の意味をつかませる。</p> <p>・「want to +動詞の原形」の形態と意味を説明し、文型に慣れさせる。</p>	<p>・4人の生徒が「～したい」という意味を理解できた。S1も、気付いたようであった。</p>
	3 基本表現の説明と練習	<p>① I want to play baseball. / I want to dance. / I want to go shopping で口頭練習。 ② I want to be a teacher / I want to be a doctor. で口頭練習。</p>	<p>・mim-memでの音声練習が非常のスムーズに行われた。</p> <p>うあ～</p> <p>ん...?</p>
総合的な言語活動「わたしの夢」での want to～使用を意識させる。	<p>P. 30 を開いてください。ここで、みなさんは英作文「わたしの夢」、これを書いてもらいます。</p> <p>一見、難しそうですね。でも、よく見てください。4文くらいですよ。さあ、もう使える表現、わかったでしょう？（板書を指して）こんなの使えばすぐに書けますよね。For example, リピート</p>	<p>・最初は不安そうであったが、すぐになんとかなりそうだという雰囲気に変化した。</p>	
	<p>I want to be an English teacher. I want to study English. I like English very much. (ゆっくと2回ずつリピートさせる)</p>	<p>・自信のある声で、リピートできた。</p>	
4 教科書本文の内容把握 (省略)	<p>いくらでも文が出てくるでしょう？そんなに難しいことはないのです。こういうポイントをしっかり聞いて、「わたしの夢」で使いたい表現をイメージして行こう。</p> <p>want to be～「～になる」これだけ、教科書に大きくメモしましょう。後で見て「あっ！」と思わせる場所に。</p>	<p>・全員が素早く、メモをとったので総合的な言語活動に向けての意識化が図れたと判断した。</p>	
5 新出語句の練習 (省略)			

<p>新 出 表 現 の 理 解 と 練 習</p>	<p>(Formative Input の開始) 6 本文の音読練習 (復習)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チャンクリピート×2 ・チャンクリピート (速) ×1 ・センテンスリピート×2 ・個人練習×2 ・チャンクリピート (速) ×1 ・センテンスリピート (速) ×1 ・個人練習 (じゃんけんリーディング) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自信がなさそうな生徒が数名見られたので、周囲に自信のない単語の音を確認させた。 ・かなり、音量があがってきた。 ・速さも出てきた。 ・3人の人とじゃんけんをして、負けたら全文を音読する。この間に必要な生徒に個別指導を行った。(1人) ・6人全てが音読できた。
<p>4回目 (Team Teaching で実施)</p>			
<p>既 習 表 現 の 活 用</p>	<p>1 Oral Introduction (抜粋)</p> <p>2 Questions & Answers</p> 	<p>T: OK. Vanessa. What do you want to do next holidays? V: I want to go shopping. T: You want to go shopping? Where? Hanamaki? V: In Morioka. T: Morioka? What for? V: I want to buy CDs. T: You want to buy CDs? (生徒の方を見て) She wants to buy CDs. What music do you like? V: I like "Green Day." T: Pop music? V: No, it's rock music. What do you want to do next holidays? T: I told the students before. (生徒の方を見て) Do you remember? I want to go to the beach. I want to body-board. I like body-boarding very much.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が I want to ~で自己表現ができた。
<p>既 習 表 現 の 活 用</p>	<p>注) JTLとALTが全員と対話する自己表現練習</p>	<p>What do you want to do next holidays?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JTLとALTの質問に英語で答える。 ・フォーマティブインプット&イージーアウトプットに向けて生徒が「何がしたいですか。」と質問する練習に発展させる。 <p>What do you want to do next holidays?</p>	<p>例) I want to practice Judo. What do you want to do, Vanessa?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員が対話を完了することができた。
<p>既 習 表 現 の 活 用</p>	<p>(Formative Input の開始) 3 音読練習</p> <p>フォーマットの提示 フォーマット9 【補充資料3】参照 *意味のやり取りを確認しながら、黒板に提示。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・再度、全員と対話する。 ・チャンク×2 ・センテンス×2 <p>A: メル友見つけたいよ。 B: いいよ。ネットサーフィンして見つけようよ。 A: 難しいのかな? B: 全然。世界中でたくさんの人たちがコンピュータで友だちになってるんだよ。 A: おもしろそう。 B: 見つけた! 彼(彼女)とメル友になりたい? A: うん。なりたい。/ いや。なりたくない。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・後半に“want to be~”の台詞を付け加えたので、暗唱が十分にできていない。 ・最後の「ペンパルになりたい(なりたくない)」の前の his/her の使い方が理解できていない生徒がいる。
<p>自 己 表 現 活 動</p>	<p>4 自己表現&リハーサル</p> <p>(パフォーマンス) * 5回目に実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーマットの意味のやり取りを理解し、自己表現する部分を確認する。 ・黒板に提示されたフォーマットにより、ペアでシナリオを完成させ、5分間のリハーサルを行う。 ・リハーサルを観察し、質問等に答える。 ・パフォーマンスは次時に設定し、再度、フォーマットの意味のやり取りとhis e-pal/ her e-palsの使い方を説明した。 <p>P30の「わたしの夢」を書くために次の質問に答えなさい。</p> <p>What do you want to be in the future? I want to be a (なりたい職業) .</p> <p>What do you want to do in the future? I want to (やりたいこと) .</p>	<p>注) 単語や表現がわからない時は、日本語でよい。</p>

(7) 3回目の授業～新出表現の理解と練習から音読へ～

3回目の授業は、協力校の進度を引き継ぎ、Unit3【Starting Out】の基本表現である「不定詞の副詞的用法」の活用練習から授業を始めた。そのため【Dialog】における新出表現の理解と練習（約25分）の指導の概要を【資料6】に掲載した。

“Oral Introduction”による導入は、敢えて1回目の授業と類似したスクリプトで行った。こうすることで、生徒たちは、英語だけで進めても大意を容易に理解できた。また、新出表現についての文法的な説明がなくても、Questions & Answersで「～したい」という意味を理解し、英語で反応することができたので、“Introduction”は成功したと判断し、基本表現の形態と意味を説明し、すぐに口頭練習を行った。全体練習、個人への指名（8名）ともスムーズな発話ができたので、総合的な言語活動に向けて、“want to be～”を例文として練習することにした。

例文として“I want to be a teacher.”、“I want to be a doctor.”を口頭練習し、“want to be～”の意味を推測させた。生徒の反応状況から、ほとんどの生徒が「～になりたい」という意味を把握できたと判断したが、挙手でも意味がつかめたかどうかを確認した。

全員の手が上がったので、総合的な言語活動「わたしの夢」での使用を意識させることにした。教科書30頁を開かせ、「わたしの夢」というテーマでスピーチをしたり、英作文を書いて掲示したりする活動を行うことを告知した。

生徒は、最初は不安そうであったが、「英語の先生になりたい」の例を挙げ、“I want to be an English teacher. I want to study English.”のように、基本表現を使えば簡単なことを説明し、“I like English very much.”や“English is interesting.”等の展開する例文を示すと、うなずく生徒が多くなった。今後の授業でも、「わたしの夢」に使えるような表現を例示するので、自分なりに英作文をイメージしていくように、指示を与えた。

(イ) 4回目、5回目の授業 ～フォーマティブインプット&イージーアウトプット～

4回目の授業は協力校のチームティーチングの予定日だったので、「既習表現の活用」の時間に、全員と“What do you want to do next holidays?”で対話する練習を行った。フォーマット9のパフォーマンスに向けて単に教師の質問に答えるだけでなく、質問を聞き返す練習も行うことができた。

基本表現については、十分な口頭練習ができたと判断し、フォーマティブインプットへと進んだ。音読からパフォーマンスまでの指導については、ここでは省略する。

イージーライティングで使用したシートが次頁【資料7】である。問題(1)は、「既習表現の活用」の際にQ&Aで練習した「話すこと」の自己表現を書く活動である。2文以上書いた生徒は10名で1文が16名であった。例文をシートに提示していたので、文法的な誤りのある生徒はいなかったが、ピリオド等の符号や、大文字と小文字のバランスについては個別指導を行った。

問題(2)は総合的な言語活動「わたしの夢」に向けて、“want to be～職業名”を用いて自己表現を書く活動である。しかし、この段階では文法は理解できても、自己表現に必要な職業名や一般動詞等の語彙がわからない生徒が多い。そこで、問題(2)のように日本語を併記した英作文を書かせた。

この生徒の記述を基に生徒一人一人が到達目標に至るために必要な語彙や表現集を次頁【資料8】【資料9】のように作成し、次時からの「既習表現の活用」で使用した。

【資料7】Unit3 【Dialog】において使用したイーजीライティングのシート（抜粋）

次の質問に英語で答えなさい。

(1) What do you want to be next holidays?
 *できるだけ、たくさん書き出しましょう。
 例) I want to go to Tokyo./ I want to sleep/ I want to practice Judo.

(2) What do you want to be in the future? What do you want to do in the future?
 例) I want to go to Tokyo. /I want to be a 保母さん./I want to 世界を一周したい.
 I want to be a ゲームデザイナー.
 *できるだけ、たくさん書こう。英語がわからないときは、上のように日本語で書いてもいいです。
 (後で先生に聞いたり、辞書で調べたりします。)

「既習表現の活用」の過程で行った Q & A の言語活動と「書くこと」の活動を結び付けている。

イーजीライティングで単元（題材）の指導と総合的な言語活動「わたしの夢」を結び付けている。

【資料8】総合的な言語活動「わたしの夢」で生徒の使用が予想される語彙集（抜粋）

P30の「わたしの夢」を書いたり、話したり、聞いたり、読んだりする活動のために、いろいろな表現を覚えよう

【～になりたい】で使ってみよう 語句 「～になりたい」は want to 動詞の原形

メジャーリーガー a major league baseball player スポーツ選手 a professional (volleyball)player ゲームデザイナー a game designer
 学者 a scholar デザイナー a designer / a fashion designer / a jewelry designer パイロット a pilot 有名人 celebrities
 金持ち a rich man ネイルアーティスト a nail artist 音楽家 a musician / pianist / violinist / rock musician / rock singer
 接客係 an attendant / スチュワーデス a flight attendant 調理師 a cook / シェフ a chef
 先生 a Japanese teacher / an English teacher / a math teacher 美容師 a beautician / a hair designer
 保育士 a nursery teacher 幼稚園の先生 a kindergarten teacher イラストレーター an illustrator トリマー a trimmer 大人 a man
 アナウンサー an announcer 宇宙飛行士 a astronaut 大工 a carpenter エンジニア an engineer

【資料9】総合的な言語活動「わたしの夢」で生徒の使用が予想される表現集（抜粋）

P30の「わたしの夢」を書いたり、話したり、聞いたり、読んだりする活動のために、いろいろな表現を覚えよう

* 【～したい】で使ってみよう 語句

～にいってみたい want to go to Tokyo / New York / Koshien want to visit Tokyo 世界を一周したい want travel around the world
 服をデザインしたい want to design clothes アクセサリーをデザインしたい want to design jewelries
 世界で活躍したい want to work around the world 有名になりたい want to become famous
 みんなを喜ばす make people happy みんなを感動させる impress people 世界の歴史にふれる learn history in the world
 世界の文化にふれる learn culture in the world ～に住む live in Morioka/ America ～で働く work in Morioka
 ～が欲しい want~/ want money / want a new house 一人前の大人になりたい want to be a man/ a woman

ウ 語彙集・表現集を用いた「既習表現の活用」

6回目、7回目の授業は、Unit3【Reading for Communication】が主たる教材であるが、【例4】のようなQ & Aを行い、音声中心の活用練習を行った。この言語活動により、生徒は自己表現のための語彙を、音声や意味と結び付けて、記憶することができた。総合的な言語活動におけるスピーチや英作文というコミュニケーション場面で使用するという意識が明確になり、Q & Aの前に、語彙集の単語を素早くリピートし、音声と意味をインプットする単純な口頭練習も、意欲的に取り組む姿勢が見

られた。

指導計画では【例4】のQ&Aを使用し、クラスメートにインタビューするコミュニケーション活動を行い、職業を表す語彙を拡大する言語活動を実施する予定であったが、教科書の進捗の関係で実施できなかったため、8回目の総合的な言語活動Ⅱ「わたしの夢」の時間に発展的な言語活動として実施することにした。

エ 総合的な言語活動Ⅱ「わたしの夢」の概要

各クールにおいて、到達目標に達したかどうかを判断する課題（タスク）となる言語活動を設定したのが、本研究における「4領域を関連させた総合的な言語活動」である。7頁【表4】と11頁【表6】における実践計画を基に、次の①～⑤の言語活動を実施した。生徒の実現状況に合わせ、形成的評価をしながら、段階的に言語活動を行った。

① “What do you want to be in the future?” を使用したコミュニケーション活動

クラスメート3人以上に英語で質問し、「職業名」をメモし、3人称主語でクラスメートに紹介するレポート活動。教師が、紹介された生徒に“Do you really want to be a pilot?”という確認の質問をしたり、Why?”や“What do you want to do if you can become a pilot?”等の質問をしたりすることにより、語彙集・表現集の英語をインタラクティブに使用していくことをねらった。

② リポートを書く活動

その後、“Takeshi wants to be a doctor in the future.”のように、3人称主語の英文を書く活動を行い、英作文「わたしの夢」に向けて、トピックセンテンスである“want to be”が正しく書けるかどうかの形成的な評価を行った。本実践では、3文書いた生徒から挙手をさせ、全員の解答を確認した。職業名のスペリングミスが数名見られたが、“wants to be～”の表現は“s”の付け忘れが数名見られたのみで、全員が書くことができた。

③ スキット作成と発表

「話すこと」の評価場面としてのスピーチの発表の前に、コミュニケーションを意識させ、丸暗記のスピーチや英作文にならないための、つなぎの言語

【資料10】総合的な言語活動で使用した自由度の高いフォーマット

A : (B)、将来、何になりたい？

B : (職業名) になりたいな。(何か1文以上、付け加える)

A : (簡単に感想を述べる)

B : How about you, (A) ?

A : 私は/私は (職業名) になりたいな。(何か1文以上、付け加える)

A : (簡単に感想を述べる)

活動を行う必要があると判断し、【資料10】のフォーマットで自己表現、リハーサル、パフォーマンスを行った。第2クールにおけるフォーマティブインプット&イージーアウトプットや帯活動でスパイラルに繰り返した言語材料で構成したフォーマットであり、自由度も大きくなっている。また、英作文「わたしの夢」でトピックセンテンスから展開する英文を考えることにもつながるように作成した。パフォーマンスのための自己表現&リハーサルにおいて、語彙集や表現集を活用し意味を考えながら口頭練習を何度も行うことで、音と文字も一致してくる。パフォーマンスの後に英作文を書く活動に、有効な言語活動である。予想通り、「簡単に感想を述べる」部分への質問が多く出たが、【例5】のようにこれまでのフォーマティブインプット&イージーアウトプットの活動

【例4】

Q) What do you want to be in the future?

A) I want to be a (職業名) .

Q) What do you want to do if you can become (職業名) ?

A) I want to (~したい) .

Q) Do you like (ex) music? animals?

* 関連した質問

Q) Do you like to make people happy?

を英語での質問で想起させたり、表現集を使用して質問したりして、生徒自身の力で自己表現ができるように支援した。その後、パフォーマンスを行い、「話すこと」の活動の評価場面として、全ペアを観察し、実現状況を把握した。4組のペアの暗唱ができていなかったが、メモを見れば、発表できた。自己表現部分での誤りがあった生徒については、パフォーマンス後、すぐに確認して、次の英作文の注意点として指導した。

④ 英作文「わたしの夢」

①～③まででの活動で1単位時間を終了したので、掲示物作成のためのイラストやカラー用紙の切り抜きの準備を宿題とした。2時間目は「既習表現の活用」として、第2クール内でのQ&Aの復習や

発音やイントネーション重視の音読の復習からスタートし、英作文「わたしの夢」を書く活動を行った。15分の時間設定をしたが、20分かかった生徒もいた。時間内に終了した生徒については、掲示用の色塗りやイラストを付け加えさせた。さらに、英作文を暗唱し、スピーチとして発表するための個人練習を指示した。

⑤ スピーチによる発表

スキットの発表で「話すこと」の言語活動は到達目標を達成したと判断できたので、スピーチの発表は協力校にお願いすることにした。また、「クラスメートのスピーチを聞いて、感想や質問を交流する」という言語活動は実施できなかった。

(2) 実践結果の分析と考察

書く力を高めるための試案の有効性を確かめるために、12頁【表8】の検証計画に基づき、分析と考察を行った。

ア コミュニケーションとして書く力の育成状況

11頁の検証の視点で示したとおり、コミュニケーションとして書く力を具体化した到達目標「将来なりたいもの・してみたいこと」について「自分についての3～4文程度の英文を書くことができる」を達成しているかを把握するために、総合的な言語活動で書かせた英作文「わたしの夢」の記述から到達状況を判断した。判断は12頁の【表7】で示したとおり【量】【正確さ】【適切さ】の3点で到達状況を見取った。次頁【資料11】は生徒の英作文の到達状況を判断した例である。

生徒Aは設定した時間内で、目標とする4文の文章を完成した。教科書や語彙集を自分で確認し、スペリングのミスもない。トピックセンテンスから書き出し、その理由として、自分の気持ちを具体的に書いている。到達目標に十分に達していると判断できる。

生徒Bは3文しか書いていないが、スペリングミスはなく、文法的なミスもない。“work in New York”は、「ネイルアーティスト」という職業を考えると、自分の気持ちを適切に表している。

“make people clean”は表現集を参考にして書いた英文であるが、“clean”の意味を誤解して書

【例5】

S : 先生、ここどう言うの？

T : Oh, you want to be a nail artist, right?

S : Yes.

T : Great! That's very popular in America. Do you want to go to New York?

S : Yes.

T : So you can say I want to go to.....

S : New York!

T : That's right. Say again.

S : I want to go to New York.

T : In the.....

S : I want to go to New York in the future!

T : And you can(also)say, I want to have a shop in New York... I want to be famous in New York.



S : OK. OK. 先生「働く」って、work?

T : Yes. (自己表現を思いついたようなので終了する。) Good question.

いた英文と考えられる。“make people beautiful”が適当である。しかし、第2学年1学期の語彙を考えると表現ミスとは言えない。生徒の反応を予想できずに、表現集を用いた言語活動で、“clean”の意味を十分に把握させていなかった指導に原因があり生徒Bの正確さに問題があるとは言えない。

このようにして、生徒一人一人の英作文を分析したのが、【補充資料4】である。その結果、対象生徒25名中25名が到達目標に達したと判断した。このことから、トピック「わたしの夢」におけるコミュニケーションとして書く力は、概ね育成されたと考える。

【資料11】到達目標達成状況の判断の例

<p style="text-align: center;">This is my dream!</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">到達目標達成</div>  <p><u>I want to be a Japanese teacher.</u> <u>I want to go to college.</u> <u>Japanese is interesting.</u> <u>I like Japanese very much.</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>《判断理由》 【量】○4文21語 短時間で十分な分量が書けている。 【正確さ】 ○スペリングミスなし。 ○文法的な誤りなし 【適切さ】 ○「国語教師になりたい」という夢を述べ、その理由を具体的に3文書けている。</p> </div>	<p style="text-align: center;">This is my dream!</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">到達目標達成</div>  <p>I want to be a nail artist. I want to work in New York. I want to make people clean.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>《判断理由》 【量】○3文20語 十分ではないが、目標は達成している。 【正確さ】 ○スペリングミスなし ○文法的な誤りなし ● make people clean の意味を誤解して使用しているが、意味は伝わる。この場合の表現のあやまりは語彙の指導と支援の仕方の問題であり、正確さがないとは判断できない。 【適切さ】 ○「ネイルアーティストになりたい」という夢を述べ、その理由を具体的に2文書けている。</p> </div>
---	---

イ コミュニケーションを支える基礎的能力を培う指導の有効性

しかし、到達目標に達したという事実だけでは手立ての試案が有効であるとは言えない。コミュニケーションを支える基礎的能力を培う指導が、本当に英作文「わたしの夢」に作用したかを検証する必要がある。

本研究では、コミュニケーションとして書く力を支える基礎的能力を語彙力、文法力、音と文字をつなぐ力という要素でとらえた。よって、生徒と一人一人の記述内容とコミュニケーションを支える基礎的能力を培う指導の関係性を総合的に分析し、有効性を検証したい。

(ア) 音と文字をつなぐ力のとらえ方と育成状況

「わたしの夢」のようなトピックを設定しての英作文をタスクとして設定した場合、生徒が自分の気持ちや意向を書く際に問題となるのは、語彙や文法（基本表現）の制限である。第2学年1学期末の語彙や基本表現だけでは、コミュニケーションとして、自分の気持ちを十分に表現することはできないからである。このような制限をできるだけクリアするための指導が、フォーマティブイ

ンプット&イージーアウトプットと「既習表現の活用」での言語活動である。

ここで問題になるのが、語彙集と表現集である。生徒は英作文「わたしの夢」を書く際に、語彙集と表現集のシートを利用してもよいことになっている。つまり、「ただ書き写すだけ」で英作文を完成した生徒がいることが考えられ、検証の妥当性を損ねることになる。

そこで必要となるのが、英作文へ取り組む姿の観察である。本実践においては、生徒の質問や取組の様子を観察した結果、意味を考えずにただ書き写している生徒はいないと判断した。

妥当性を高めるために、更に大切なのが、音と文字をつなぐ力の見取りである。フォーマティブインプット&イージーアウトプットと「既習表現の活用」の言語活動における生徒の実現状況、総合的な言語活動におけるスキットやスピーチの実現状況から、音と文字がつながっているかを把握することができる。例えばパフォーマンスで“I want to be his E-pal.”が使えていて、帯活動におけるQ&Aで“I want to be a nursery teacher.”と反応でき、総合的な言語活動でのスキット発表で“I want to be a nursery teacher.”を使用できたとすれば、英作文の記述は語彙集を利用したとしても、ただ単語を書き写したのではなく、既習の語彙や文法を活用して自分の気持ちを書いたと判断できるのである。

このような考え方で、生徒全員の英作文とそれまでの指導との関係性を分析した。その結果、対象生徒25名とも音と文字をつなぐ力が育成されていると判断した。（【補充資料4】参照）

(イ) 語彙力と文法力の育成状況

生徒の英作文における語彙力と文法力は密接に関連している。そこで【資料12】のように、生徒が英作文に使用した基本表現と使用例を基にして、コミュニケーションを支える基礎的能力（語彙力、文法力）の指導の有効性について分析と考察を行った。

【資料12】英作文「わたしの夢」で生徒が使用した基本表現と主な使用例

英作文「わたしの夢」で生徒が使用した基本表現	生徒数	生徒の主な使用例
want to be～	25	I want to be + (職業名)
want to be like～	9	I want to be like Ichiro. / I want to be like her.
want to + 動詞の原形	23	I want to (表現集を活用) .
be going to + 動詞の原形	4	I am going to study hard. / I'm going to go to college.
like to + 動詞の原形	5	I like to impress people. / I like to play baseball.
like + (動) 名詞	16	I like animals very much. / I like music very much.
～is interesting/popular等	5	Cooking is interesting. / Ichiro is popular.

英作文「わたしの夢」で最も使用する語彙は「将来なりたい職業名」である。本実践では対象生徒25名全員が自分の「職業を表す名詞」を使用することができた。また、トピックセンテンスである“want to be ～”も25名全員が、英作文の1文目に使用することができた。“want to be～”は教科書本文に出現しないので、3回～5回目の授業でのフォーマットに意図的に使用した基本表現である。

この表現の場合、職業名の前の不定冠詞“a”を忘れるミスが多いのだが、不定冠詞の付け忘れは2名であった。“an”を用いるべき単語を使用した生徒2名は2名とも“an”を使用することができた。加えて、“want to be like～”も9名の生徒が使用しており、文法的なミスもない。使用例

も“want to be like my father”等、適切に自分の考えを表現している例が多い。これは、5回目の授業で生徒の表現したい語彙を把握して語彙集を作成し、6回目と7回目の授業の「既習表現の活用」の過程でQ&A【例4】や、総合的な言語活動でのスキット発表（22頁【資料10】）のような「聞くこと」「話すこと」中心の基礎的能力を培う指導が生徒の英作文の語彙や文法に大きく作用したことを示している。

2文目からの英作文で、生徒が最も多く使用したのが、“want to+動詞の原形”の基本表現であり、23名が使用した。生徒は予想したとおりに表現集の英語を活用して、英文を書くことができた。この表現で文法的な誤りをした生徒はいない。また、2文以上で使用した生徒が7名いた。これは、到達目標文を実現するために、教師が意図的に表現集で練習しているので当然の結果である。しかし、留意すべきは“want to+動詞の原形”を2文以上で使用した生徒は、表現集を利用したQ&Aやスキット発表において、教師やクラスメートの使用した表現を学んで、英作文で書き加えている点である。

例えば、“make people happy”という表現は、ある1名の生徒の「みんなのためになりたい」と書きたいという回答を基に英訳し、表現集に載せた表現である。しかし、最終的には6名の生徒が自分の英作文で使用している。これは、表現集を利用した「聞くこと」「話すこと」の言語活動が生徒の「この表現、使えそう。」とか、「自分も使いたい。」という意識につながり、英作文の自己表現に有効に作用したことを示している。

実践の概要で述べた“be going to～”を用いた表現の使用は4名と少なかった。これはフォーマティブインプット&イージーアウトプットの実施から総合的な言語活動までの期間が長過ぎたこと、「わたしの夢」での使用を意識しての「既習表現」の活用練習ができなかったこと、提示した例文“study hard”，“go to college”が一部の生徒の使用したい表現としか合わなかったことが考えられる。しかし、使用した生徒の使用例を見ると、自然な文脈で自分の気持ち表現しており、4名の生徒には有効に作用したと言える。

一般動詞“like”を含む表現は、21名の生徒が使用している。基本的な動詞であり、教科書のモデル文でも“I like her very much.”という表現が使われている。生徒にとって、簡単に使用できる表現であり、これだけでは指導が有効に作用したとは言えない。しかし、9頁関係図⑤で示した指導により、“like to +動詞の原形”の表現を使用している生徒が5名おり、使用例も適切であった。同様に関係図④で示した“popular”“interesting”を使用した生徒が5名であり、使用例も適切であった。これらは、教師のねらった基礎的能力を培う指導が生徒の英作文に作用したことを示していると考えられる。

6 中学校英語科における書く力を高める指導に関する研究のまとめ

コミュニケーションを支える基礎的能力を培う継続的な指導と4領域を関連させた総合的な言語活動を関連させた指導について、指導実践から成果と課題についてまとめる。

(1) 成果

ア フォーマティブインプット&イージーアウトプットを、到達目標文の核となる基本表現を使用したフォーマットで行うことは、生徒が英作文でその基本表現を使用する際の正確性を高め、文法力の育成につながるということがわかった。

イ フォーマティブインプット&イージーアウトプットで音読を「話すこと」の自己表現活動へと発展させる指導を継続的に行うことは、生徒の音と文字をつなぐ力を高め、スピーチやスキットで話す力と書く力を高めるために有効であることがわかった。

ウ フォーマティブインプット&イージーアウトプットで培った基本表現を「既習表現の活用」のような帯活動でスパイラルに使用し、総合的な言語活動に結び付ける指導は、未習の語彙や表現を生徒に定着させ、総合的な言語活動における実践的なコミュニケーション活動を支える語彙力や文法力を培うことに有効であることがわかった。

エ 総合的な言語活動の到達目標文を具体的に設定し、バックワードデザインで、フォーマティブインプット&イージーアウトプットや「既習表現の活用」の言語活動で基礎的能力を培うという手だての試案は、実践した第2クール内では、書く力を高めるために有効であることがわかった。

(2) 課題

ア 到達目標を生徒全員が実現したが、これは、第2クールにおけるコミュニケーションを支える基礎的能力を培う指導が有効であったことを検証したにすぎない。今後は、協力校における継続的な実践を重ね、クールごとの比較を積み重ねることにより、有効性を検討する必要がある。

イ 学年の発達段階に応じて、到達目標や到達目標文が変わるので、バックワードデザインによる指導計画や手だての試案のあり方について、さらに検討する必要がある。

以上のことから、音読を「話すこと」の自己表現に発展させ、書く力と結び付ける、フォーマティブインプット&イージーアウトプットの指導は到達目標文を限定したクールにおいては書く力を高める上で有効な手だてであることが確かめられ、実践を積み重ねることで、書く力を高める指導の改善に役立つという見通しをもつことができた。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

この研究は、コミュニケーションを支える基礎的能力を培う継続的な指導と4領域を関連させた総合的な言語活動の工夫をとおして、中学校英語科における書く力を高める指導の在り方を明らかにし、学習指導の改善に役立つものである。二年間の研究について次のようにまとめることができる。

(1) 中学校英語科における書く力を高める指導に関する基本的な考え方について

本県における「書くこと」の指導の実態を見直し、書く力が高まった生徒の姿をふまえ、書く力を高めるためには、実践的なコミュニケーション場面で書く経験の場を設定し、その活動を支える基礎的能力として、語彙力、文法力、音と文字をつなぐ力を培うことが重要であるという考え方を示すことができた。

(2) 中学校英語科における書く力を高める指導に関する基本構想の立案について

実践的なコミュニケーションの活動場面として、4領域を関連させた総合的な言語活動を設定し、その言語活動を支える基礎的能力を培う継続的な指導を日常授業で行っていくというバックワードデザインの構想を示すことができた。この構想を更に具体化し、到達目標を設定し、フォーマティブインプット&イージーアウトプットで基礎的能力を培うという基本構想を立案できた。

- (3) コミュニケーションを支える基礎的能力を培う継続的な指導のための手だての試案について
総合的な言語活動と結び付いた基礎的能力を培う指導のための手だての試案を、フォーマティブインプット&イージーアウトプットと「既習表現の活用」のための帯活動を中心としてまとめることができた。
- (4) 4領域を関連させた総合的な言語活動と年間指導計画の立案及び検証計画の立案について
4領域を関連させた総合的な言語活動の到達目標と年間指導計画を立案することができた。また到達目標文の例と単元の指導内容の関係図を作成し、各指導で使用するフォーマット集も作成することができた。これらの資料に基づいて、第2クールの約2ヶ月にわたる実践計画を具現化することができた。さらに、生徒の実際の英作文から、コミュニケーションを支える基礎的能力の指導の有効性を見取る検証計画を立てることができた。
- (5) 年間指導計画に基づく手立ての試案の実践とその分析と考察について
指導実践計画に基づき、研究協力校の中学2年生を対象に、総合的な言語活動に結び付けた手だての試案を中期的なスパンで実践することができた。分析・考察の結果、総合的な言語活動における到達目標に、フォーマティブインプット&イーゼライティングを中心としてせまるという、本実践の手だてが有効であることが確認された。
- (6) 中学校英語科における書く力を高める指導に関するまとめ
研究の成果と課題をまとめることができた。また、本研究における総合的な言語活動と結び付いた手だての試案が書く力を高める指導の改善に役立つという見通しをもつことができた。

2 今後の課題

本研究は「書くこと」の言語活動の基礎的能力を、音読（「読むこと」）を「聞くこと」「話すこと」の領域と関連させた言語活動で培うという方向性をもつ研究である。よって「書くこと」の領域において、文脈を考えて書いたり、表現力や思考力を高めたりするという発想がなかった。しかし、このような先行研究を総合的な言語活動における書く活動に取り入れ、工夫をしていけば、コミュニケーションを支える基礎的能力を培う指導が、更に意味のある指導となると考える。

おわりに

この研究を進めるに当たり、ご協力いただきました研究協力校の先生方、及び生徒のみなさんに心からお礼を申し上げます。

【引用文献】

舟山美知(2003～2004)，『英語力を育成する高等学校の学習指導に関する研究～指導に生かす評価の工夫をとおして～』，岩手県立総合教育センター，《第1年次研究》15頁

【参考文献】

Canale, M. and M. Swain, 1980. Theoretical Bases of Communicative Approaches to Second language Teaching and Testing, Applied Linguistics.

Littlewood, M. 1981. Communicative Language Teaching, Cambridge University Press, 1981

伊藤治己編著(1999)，『コミュニケーションのための4技能の指導』，教育出版

國広正雄編著，久保野雅史，千田潤一(2001)，『英会話・ぜったい音読・入門編』，講談社

高島英幸編著(2000)，『実践的コミュニケーション能力のための英語のタスク活動と文法指導』，大修館書店

高島英幸(2005)，『英語のタスク活動とタスク』，大修館書店

田中武夫・田中知聡(2003)，『「自己表現活動」を取り入れた英語授業』，大修館書店

田中正道編著(1999)，『伝達意欲を高めるテストと評価』，教育出版

谷口賢一郎(1998)，『英語教育改善へのフィロソフィー』，大修館書店

千葉 司，鈴木俊行(1997)，『英語科における「話すこと」と「書くこと」の関連を図る学習指導の在り方に関する研究』，岩手県立総合教育センター

土屋澄男(2004)，『英語コミュニケーションの基礎を作る音読指導』，研究社

平田和人編(2002)，『中学校英語科のリニューアルと授業デザイン』，明治図書

舟山美知(2003～2004)，『英語力を育成する高等学校の学習指導に関する研究～指導に生かす評価の工夫をとおして～』，岩手県立総合教育センター

本多敏幸(2003)，『到達目標に向けての指導と評価』，教育出版

松本茂編著(1999)，『生徒を変えるコミュニケーション活動』，教育出版

三浦 隆(2002～2003)，『実践的コミュニケーション能力を高める英語科の指導に関する研究～オーセンティックなコミュニケーション活動につなげる文法指導をとおして～』，岩手県立総合教育センター